

フリーペーパー「たね」第五号となる2022年春号です。
今春、四賀にインターネットナショナルスクールが開校！という
わけで、今回のテーマは「大人も子供も学ぶは楽しい！」
お楽しみいただけると思います。

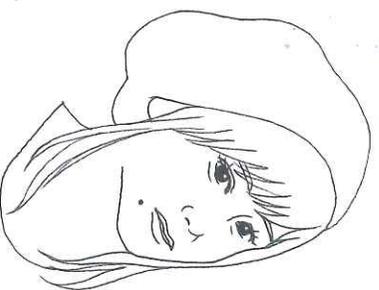
たね

2022年
春号

松本市四賀地区のフリーペーパー

松本市四賀地区のフリーペーパー「たね」
2022年4月1日発行
発行人：相原愛 デザイン協力：相原優
協力：四賀地区地域づくり協議会
お問い合わせ：hanahirakukiki@gmail.com

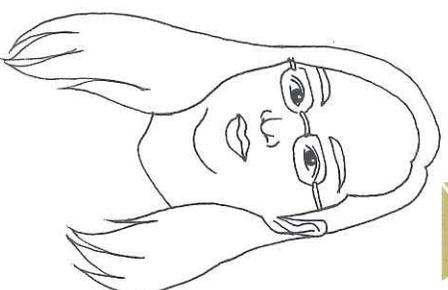
お問い合わせはこちら
ご意見・ご感想もお待ちしております！
hanahirakukiki@gmail.com (たね編集部)
四賀地区を知る情報サイト→
「ハレホレ四賀」



「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」
全2巻 (新潮社)

いわゆる教育本ではないけれど、イギリスの社会が
みえ、その中で生きる中学生の生活がリアル。日本
とは違うところもたくさんあって、学校生活、授業も社
会そのもので目から鱗。とても読みやすく面白。
(殿野入・匿名希望)

大人も子供も学ぶは楽しい！春のおすすめ本



オーブリー・タン
「自由への手紙」(講談社)

私たちひとりひとりが、世界をつくらっている。
これまで自分を縛りつけてきた自分ルール・あらゆる
固定観念から自由になるう。
台湾の最年少デジタル大臣から日本人に贈られた、
あたらしい時代をより軽やかに生きていくための手紙。
今から、私から、はじめよう。(相原愛)

庭の仕事承り ☑

0263-30-8416

庭師 鈴木

松本市会田3920
niwashi-suzuki.com



もっと食べて暮らそう



信州・四賀

tabekura.com

ご相談ください！

太陽光発電施工
造作大工
電気工事
リフォーム工事



ルートファインディング
080-4422-2866

松本市七嵐 783-3

手づくり靴の
ニイヨル

あなたにピッタリな1足
をお作りします。
足のトラブルでお悩み
の方もご相談ください。

0263-88-7893

http://niyol.com



ご協賛いただき
ありがとうございます！
ご協賛いただける企業
店舗・団体・個人様を
随時募集しています！



四賀にイノターナショナルスクールがやってくる！

この春、四賀地区・五常の旧五常小学校跡地に私立小学校「イノターナショナルスクール（一SN）」が開校します。長野県で初めての国際バカロレアPYP認定校（※）一条校の私立小学校として認可された本校。一SNとは、どんな学校なのでしょう？ 代表の栗林梨恵さんにお話を伺いました。

なぜ四賀なのか？

開校されるにあたり、四賀に惹かれた理由や魅力に感じたところを教えてください。

【栗林】地域資源が豊富で、ちょうどいいコミュニティの大きさ、四賀特有の文化と自然に惹かれています。私たちは、体験・学び・興味ということに於いて、学びは教室の中というよりも教室の外にある、というイメージを持っています。この間お会いした方の言葉を借りると、四賀は「自然を根っこから理解する」ことが出来る場所。コミュニティと住まいと学びが繋がった国際教育を提供していただける理想的な場所だと思います。

子どもたちが来ることを喜んでくれる。なんか、「家族の中に入っていく」イメージがある。そして、人との付き合いがある。地域の方たちが繋がってくれているし、思っています。

地域の方々に向けた説明会では、拍手が起こったと聞きました！

【栗林】とても心強い応援団だと感じています。

—— わー素敵！(笑)

【栗林】本当に！(笑) きたりに沿っていきま、という気持ちだし、地域の方々からも「うまくやっっている」という雰囲気を感じて、それが本当にありがたい。感謝ですね。「私たちのやり方はこうなので」というよりは、地域の方たちに教えてもらおうという気持ちです。

探求的な学び、様々な視点から考える力

——一SNがテーマにされている「探求的な学び」「詰め込みでない学び」「生徒が舵を取る学び」というところに、とても惹かれます。また、一SNの子どもたちには様々な視点から考える力がある、という意見を目にしましたが、これは、正解は何かと探るより「自分はこう思う」「その答えより、こっちのアイデアの方がいいと思う」というようなことでしょうか？

（※）国際バカロレア・・・国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラム。PYP (Primary Years Programme) ... 3歳～12歳までを対象としており、精神と身体の両方を発達させることを重視しているプログラム。

【栗林】そこを目指しています。現状、スタッフ全員が出来ている訳ではないけれど、スクールの指針として持っています。何かがあった時に「目指す方向性はこっちだね」というコミュニティションを取れるから、はつきりと示すことが大事なんじゃないかなと思います。「生徒が主導していく」ということは...ざっくりと言っと「大人や周りが答えを言わない」ということですね。どうしたの？何がしたいの？何が問題で止まっているの？と聞く。自分が「こうしたい」と自覚する事で、責任の所在が自分になる。「先生に言われたから」「お友達に言われたから」だと、その人のせいになってしまいますよね。それを「自分の責任」にさせてあげる。大人が出来ることは、どんな資源があるかを紹介してあげること。人・文化・歴史・自然・スキル・お金・団

体・活動、色々な資源がある中で、それを使ってどうやって「たい自分」になっていくか。それが理想としてあります。とはいえず、まだ私たちも途上です。「今日はこれでやるからね」と準備して、つい優しさを出してしまう先生もいます。カリキュラムの都合で思ったようにプレイスカッションの時間を続けられない時もある。それを、限られた「時間」という資源の中でどう料理するか。あとは、保護者も先生もみんな同じ意思疎通ができていなければいけません。そういう人達とどうコミュニケーションを取っていくか。そこも探究だったりしますよね。

—— コミュニケーションという言葉が、特に日本では調和が重んじられます。個人的な話になりますが、私はソングボールからの女子女で小学校4年生の時に日本に帰って来たのですが、そのとき、子どもなりに感じた同調圧力に、自分を合わせにいってしまった、という体験があります。そう振る舞っているうちに、いつか自分の舵を手放してしまっ。取り戻すのにすごく探求と労力が要りました。何かのせい、誰かのせいではないけれど。そうなってしまえば風潮がまだまだあるのでは、と私は感じます。そして、人とコミュニケーションをとっていくためには、まず自分を受容できているかが重要だと思うのですが、大人がなかなか出来ていないことだなと。

「その状況に対するおそろくの正解＝調和が取れた意見」ではないわけで、ひとりひとりが「自分はこう思う」を言わないと、お互いの違いも知れないし、真ん中も探せないですよね。お話を伺っていると、一SNにはその力を身につける環境があるのでは、と感じます。K



【栗林】よく聞く言葉で、「大人でも難しいのに…」というのがあって、私は子供の方が絶対に楽だと思っていて。先入観が無いし、「こういうものなんだ」ってすぐ受け入れられちゃう。だから、「こちらが「どうしたい?」いつまでにやりたい?」誰に頼る?」って言うけど、「あ、こういうふうに分かるんだ」という文化になつてくるんです。「自分たちが決めるものなんだな」って。でも、困つたら先生に「助けて」って言うてもいいんだって。聞いていいんだって。そういうやり方を、保護者とコミュニケーションを取りながらやっていく。今、私たちもそれが全部出来ているとは言いがたいんだけど、これから出来るようになってくれば、「お家で」「宿題」「お友達と遊ぶ」と、色々ある中の優先順位を付けて行くうえで、「じゃあ、あなたはどのようにしたいと思うの?」って言えますよね。「こうしなさい」「あしなさい」って、つい言っちゃうじゃない?

—— わ、わかります?…

【栗林】(笑)でも、そこを子供に探究させる。「こうしなさい」で、1分で済むところを4分5分コミュニケーションに時間をかけてみることで、後で「だってあの時〇〇がそう言ったから…」「本当はやりたくなかった…」とならない。そうやって繰り返して行くけど、何かの時は「あなたはどうしたいのか」って、自分自身に委ねてくれるよな、という自信になる。それでね、失敗した時には「自分で選んだ事なんだから」と、自分自身が受け容れやすくなる。その上で、大人が処理を手伝ってあげるとかね。そういうことが、めちゃくちゃ大事なんじゃないかなって思ってますよね。

【栗林】うん。自分を振り返れますよね。そう、あと、私たちがもうひとつ大切にしていることがあって。「国際力」とか「国際教育」って何?って、よく聞かれるんだけど、私たちが理解している国際力は「受け容れる力」だと思っていて。英語とかではないんです。「文化が違う」というと「国同士」とか大きなイメージになりがちだけど、この今話している二人の間でも、価値観・大切にしていること・優先順位というのがみんな違う。それはそれでOK。では、みんなが全員違う中でどうやっていくのかというと、「ねじ伏せる」とか「ひとつのルールを作っちゃう」とかじゃなくて、「相手を受け容れる」しなくて。「その人はそういう風に考えるんだな」って。そして、「あなたが言うなら、じゃあそれでいいよ」じゃなくて「私はこう思うよ」って、ちゃんと言えさる。その力で、人とコミュニケーションをとっていかないと身に付かないんですよ。色々な分野の人と繋がって、色々な考えの人に触れないかないと、自分の受け容れる容器が大きくならない。大人が「受け容れる力が大事なんだよ」って言うってあげないと、「アスカッション」が「いかに自分の意見を通すが、というものになる。相手を打ち負かす為」に、鎧を着ていかないといいなくなる。」

出来るだけ相手を受け容れようとしたら「え、どうしてそう思ったの?」と素直に聞けるし、「アスカッション」が穏やかなものになると思います。

—— 自分という存在を受け容れられていない

と、なんだか怖くなつて鎧を着てみたり、色々しちゃう

と思うんですよ。仰られたように、色々な人がいて、みんなOKなんだ!って思えたら、そこから広がるのかなと思います。自分にもOKを出せたら、人のことも受け容れられますよね。

一緒になつて創っていく

—— 今回、これまであまり触れることがなかった概念に触れる機会が四賀にやってきたと思つています。SNSという新しい風が吹いて、私たちがどう反応していくのが、変化していくのか。四賀にいます。ますます面白くなってきたな!とわくわくしています。

【栗林】そう言ってもらえるのは本当に嬉しい!一緒にやってみていかないと創れないものだから。一緒にやってみていくと、当たり前かもしれないけど、誤解とかね、これがあるかもしれない。だから、丁寧にやってみていかないとけないな。丁寧にやってみれば、多分大丈夫だと思つています。

—— これまでになかったもの、わからないことって怖いですよね。ここからコミュニケーションが生まれていってたら楽しいなと思います。

【栗林】打ち解けるまで、時間がかかる事もあるかもしれない。

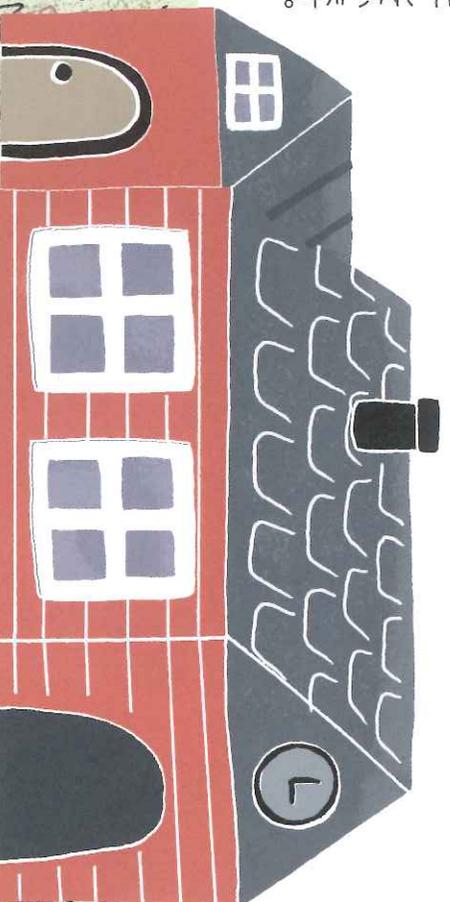
とにかく、やりながら。やってみよう。

—— 楽しみですよ!最後に、四賀の方々へのメッセージがあればお願いします。

【栗林】感謝しかないです!一緒にいいものを創つていけることを楽しみにしています。

—— ありがとうございます!

開校後は、地域の方々や地元の小中学生との交流も始めていくそです。四賀だからこそ出来る学びの形はどのようなものでしょうか。関わり合いながら、皆さんで考えていけたら素晴らしいなと思います。(取材・編集・構成 相原愛)





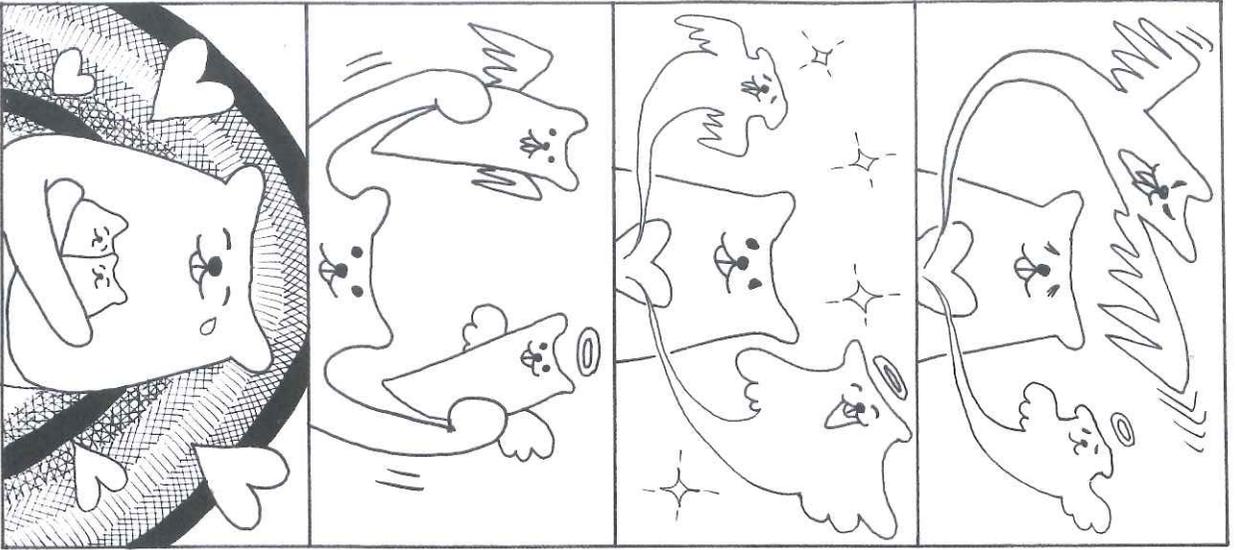
新しい時代の学校を考える ～ GIGA スクールがやってきた～

四賀小学校に通う娘が、昨年から毎日タブレットパソコンを持ち帰るようになりました。学校で認められたオンライン学習は、家でもやってもいいことです。ゲームのようなタイピング練習ソフトが大好きで、タイピングの速さはあつと言う間に抜かれてしまい、手元のキーボードを見ずにすごい速さで文章を打っています。宿題もタブレットパソコンを使ってオンラインで提出することがあります。まるで近未来の学習風景を見ているようです。新型コロナウイルスの影響で、本当に大変なことが多い中、良かったと思えることがあるとしたら、学校のデジタル化が飛躍的に進んだことが挙げられると思います。一人一台子どもたち全員にタブレットパソコンが配られ、いろいろな教科の授業で使われています。とても遅かった学校のインターネット回線も高速の無線ランが配備され、オンラインのテレビ会議が小学校でも活用されています。いわゆる政府のGIGA(ギガ)スクール構想なのですが、数年かけて行う予定だったものを前倒しで、1年足らずで一気にやっしまいました。日本は、他の先進国に比べ学校のデジタル機器の活用が遅れているかと思っていたので、少し安心しました。さらに四賀小は、山間地の学校ということで、市から特別に最新のAI学習ソフトを導入させてもらっているのですが、これがすごいのです。

AIが一人一人の実力に合わせて問題を出して、採点もしてくれま。娘に使わせてもらいましたが、タブレットに専用のペンで漢字を書き込むとちゃんと正解か不正解か判定し、不正解ならあとで復習できるようになっています。算数もAIがその子の苦手なところを分析して、最適な問題を出してくれるので、効率よく復習ができます。他県の先進事例を見ても、このソフトを上手に使えば、子どもたちが自分で計画し、友達と教え合いながら進める学習ができます。新学習指導要領でも取り上げられ、教育の分野で話題の『主体的・対話的で深い学び』です。一つ心配しているのは、視力への影響です。強い光を出す画面を長時間見続けると目に良くないので、我が家では平日は30分、休日は60分以上パソコンをしないというルールにしました。休日も30分やったら休憩をするように言っています。そして、できるだけタブレットなどのカードゲームやすごろくなどのボードゲームで子どもと一緒に遊ぶようにしています(最近はまってるのは、「カタソン」というボードゲームで、けっこう頭を使い、大人も楽しめます)。デジタル機器との上手な付き合い方を子どもにも伝えることも家庭の大切な役割りとして増えたのだと思います。(文・瀧澤輝佳)

心くま

作・画 相原愛



***** お便り紹介 *****
いつも楽しみにしています。2021年夏号の表紙の文章、深くうなずきながら読み返しています。こうすべき、こうあるべき。子育てをしていると、うっかり『べき子』に変身しちゃうことが多い、それらに気づいてまた自己嫌悪に陥ったり。でも、それすらも「かわいいわね、私」ってまごご受入れられるようになりたいと思う今日この頃。
そして、そんなふうには自分自身をゆるし、癒せたら、子どもにも他の人たちに対しても、もっとおおらかに、あるがままでもいいんだよって言えるのかなって思います。
やっぱり子育てっていうと一生懸命育てなくちゃ！って肩肘はっちゃかうけど、勝手に育っていくんだから、となりでゆっくりに見守らせてね〜くらいだと気持ちもぐんと楽になるんだよって思う。子育てってふしぎ。子どもを通して、自分を見ていくような。
何かに違和感を感じた時に、外に対しての動きも大事なことだと思っただけど、今の私にはやっぱり、「もっと自分自身をみつめること」とか、「子どもとゆったり向き合ってみること」とか、誰かや何かを変える前に、私自身ができることがあるんじゃないかな〜って。自分と子どもの関係性を見直したり、自分自身のことを考えてみたり、そういうところには最近目は向けています。そして、子どもたちに対話が大事だよねと伝えるならば、「学校お願い」って形じゃなく、私自身が家族や友達や先生に対して対話ができるようになって、その背中を見せていくのがいいのかなって思っています。(五常地区・3児の母)

>>> 感想ありがとうございます！3児の母さんのリアルで率直な思いが胸に響きました。共感する方がいらっしやるのではと思い、了承を得て掲載させていただきました。

***** アソケート *****

前号で、四賀地区の全戸配布分にはアンケートを封入しました。ご回答をいくつか紹介します。

- <四賀の魅力を感じる場所>
- ・人間関係(年配の方が親切に教えてくれる)
 - ・環境(自然が豊か・眺めが良い・空気がきれい・市街地へのアクセスがいい・星空・古民家カフェ)
 - ・子どもがのびのびしている

<ご意見・ご感想>

- ・地元の方のお話が面白かった。(集落紹介・召田の記事、市川恵一さんの記事)(30～60代・複数)
- >>> ありがとうございます！もっと色々な方や場所に出会い記事にしていきたいです。おすすめをご紹介いただけると助かります！
- ・文字が小さいので大きくして欲しい。(40代・80代女性)
- >>> 申し訳ありませんでした！四賀地区の全戸配布分は、今号から更にもうひとまわり大きいサイズにしてみました。お読みいただき嬉しいです！

ご協力ありがとうございました！より読み応えのあるものを目指し取り組んで参ります。

編集後記

春ですね。あんなに寒かったのに、ちゃんと来るんだなあ。(毎年言っている気が)薪ストーブの前でひたすら寝そべっていた我が家の犬も、生えてきた草の上に横たわりにつこり。今年は花の種をたくさん準備してあります。気がはやりませんが、気候をみながら少しずつ…ですね。(相原)